



2025 年 7 月 11 日

各 位

会 社 名 ア ゼ ア ス 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 齊 藤 文 明
(コード番号：3161 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 取締役執行役員総務部部長 五十嵐 克己
(TEL. 03-3865-1311)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）

当社は、2025 年 7 月 11 日開催の取締役会において、2024 年 7 月 10 日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」に関しまして、改めて現状を評価し、改善に向けた取り組みをアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について／2025 年 7 月 11 日」をご参照ください。

なお、2024 年 7 月 10 日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」におきまして、「ROE と PBR の推移」の表中およびグラフの指標過去実績に一部訂正すべき事項がありましたので、本アップデートをもちまして、下記のとおり訂正させていただきます。

記

【訂正前】

	2020 年 4 月
PBR（倍）	<u>0.93</u>
株価（円、期末終値）	<u>924</u>

【訂正後】

	2020 年 4 月
PBR（倍）	<u>0.94</u>
株価（円、期末終値）	<u>933</u>

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

安全・防護システムで
人と環境を守る

アゼアス株式会社

2025年7月11日

2025年4月期アップデート

**東証スタンダード市場
(証券コード:3161)**

1. 現状分析

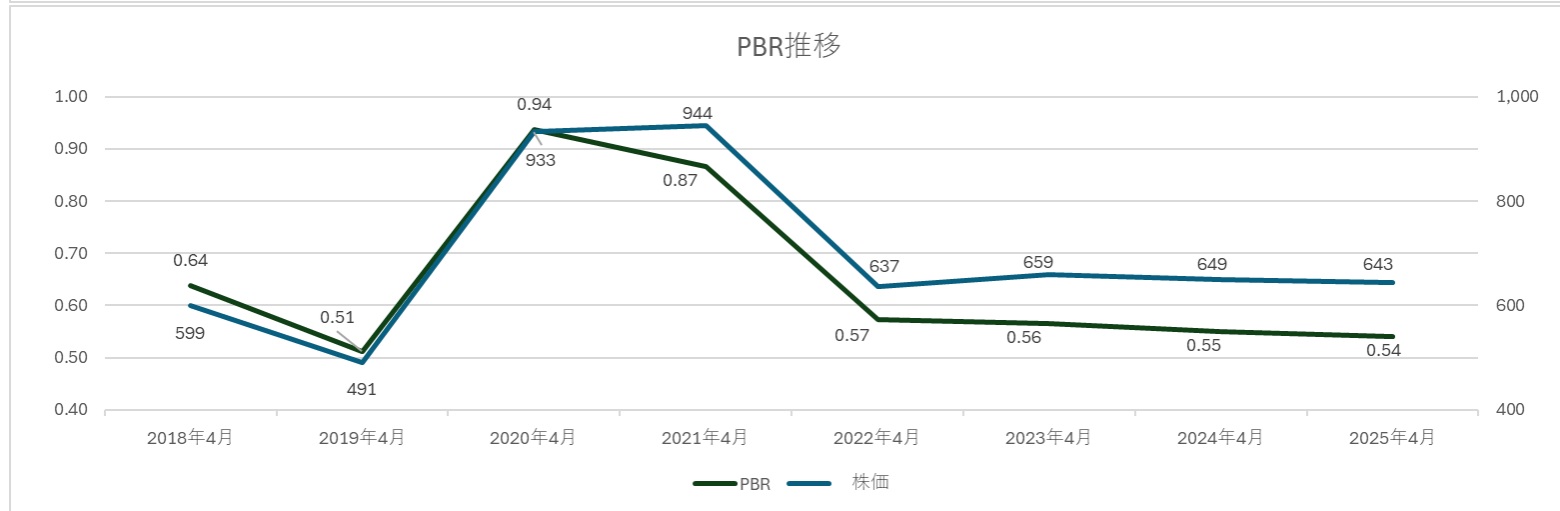
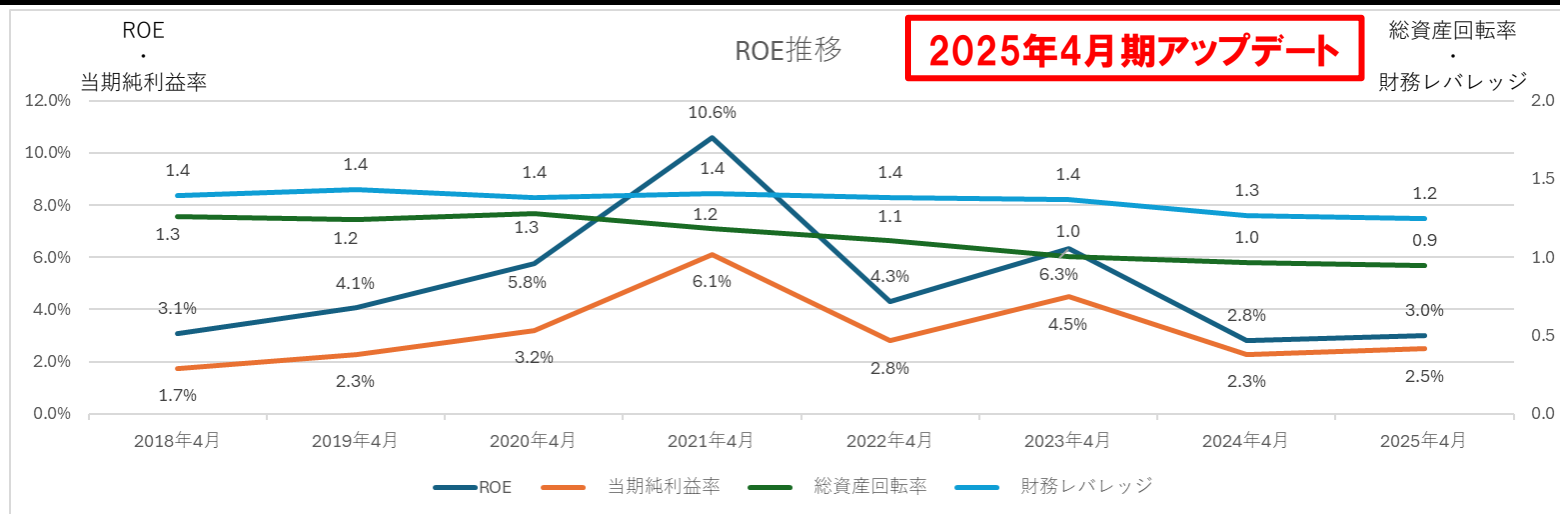
○ ROEとPBRの推移

2025年4月期アップデート

	2018年4月	2019年4月	2020年4月	2021年4月	2022年4月	2023年4月	2024年4月	2025年4月
ROE	3.1%	4.1%	5.8%	10.6%	4.3%	6.3%	2.8%	3.0%
当期純利益率	<u>1.7%</u>	<u>2.3%</u>	<u>3.2%</u>	<u>6.1%</u>	<u>2.8%</u>	<u>4.5%</u>	<u>2.3%</u>	<u>2.5%</u>
総資産回転率	<u>1.3</u>	<u>1.2</u>	<u>1.3</u>	<u>1.2</u>	<u>1.1</u>	<u>1.0</u>	<u>1.0</u>	<u>0.9</u>
財務レバレッジ	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.2
売上高(百万円)	9,223	9,520	9,941	10,205	9,545	9,081	8,242	8,027
当期純利益(百万円)	160	215	316	621	266	406	187	199
純資産(百万円)	5,260	5,374	5,608	6,138	6,273	6,604	6,724	6,768
総資産(百万円)	7,339	7,689	7,758	8,644	8,651	9,048	8,512	8,452
PBR(倍)	0.64	0.51	(*) 0.94	0.87	0.57	0.56	0.55	0.54
株価(円、期末終値)	<u>599</u>	<u>491</u>	(*) <u>933</u>	<u>944</u>	<u>637</u>	<u>659</u>	<u>649</u>	<u>643</u>
一株当たり純資産(円)	937.72	957.93	996.41	1,090.51	1,111.97	1,166.95	1,181.78	1,188.45

* 2024年7月10日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」において、2020年4月期PBR:0.93、株価924円と記載しておりましたが、誤りであることが判明したため、上記のとおり訂正いたします。

1. 現状分析



* 2024年7月10日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」において、2020年4月期PBR:0.93、株価924円と記載しておりましたが、誤りであることが判明したため、上記のとおり訂正いたします。

1. 現状分析

○ ROEに関する評価

$$\text{ROE} = \frac{\text{（当期純利益率）}}{\frac{\text{純利益}}{\text{売上高}}} \times \frac{\text{（総資産回転率）}}{\frac{\text{売上高}}{\text{総資産}}} \times \frac{\text{（財務レバレッジ）}}{\frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}}$$

<当期純利益率> …具体的施策を実行

- ・業績の変動はあるものの、長期的な傾向では改善基調
- ・事業構造の転換等、中期経営計画の施策実行で、さらに改善の可能性

<総資産回転率> …具体的施策を実行

- ・総じて低く、足元では低迷
- ・特に、売上高が伸び悩み、足元では感染症対策の需要の反動落ちで減収、売上拡大の施策は必須

<財務レバレッジ>

- ・概ね横ばい
- ・十分な株主還元を実施するとともに、業容拡大に向けた投資の検討を継続

■ 2025年4月期実績を踏まえた現状認識

2025年4月期アップデート

- ✓ ROEの要素である当期純利益率、総資産回転率、財務レバレッジは、ほぼ横ばい、あるいは、やや悪化して推移
- ✓ 当期純利益率、および、増収による総資産回転率の改善により、ROEの押し上げを図る方針であるが、人材投資や基幹システム更新などの支出が先行して発生する一方、防護服・環境資機材事業の新領域拡大やヘルスケア製品事業の採算向上が途上で、現時点では、まだ利益率や売上高が当初の想定どおりには伸長していない状況

1. 現状分析

○ PBRに関する評価

$$\text{PBR} = \text{株価} \div \text{1株当たり純資産}$$

<株価> …改善策を実行

- ・ 長期的な傾向では上昇基調、ただし1株当たり純資産以上の株価上昇に追いつかない
- ・ 新型コロナウイルス感染症のまん延など、個人用防護具の需要が急増する事業環境では、株価が大きく変動する傾向
事業環境に左右されず安定した利益を計上できる収益構造への転換は必要

<1株当たり純資産>

- ・ 利益計上を継続し、増加基調

■ 2025年4月期実績を踏まえた現状認識

2025年4月期アップデート

- ✓ 当社の業績推移を反映し、また、当社の事業を取り巻く外部環境にも大きな変動は見られなかったことから、株価は安定しつつも低位で推移
- ✓ 現時点では、まだ当社の成長戦略が増収として成果に表れておらず、株価の向上にはつながっていない状況
- ✓ 2025年4月期は、株価向上策のひとつとして、従業員が経営に参画する意識を高め、事業拡大や利益向上等、自分自身の行動や成果が株価や配当に影響を及ぼすことを認識してもらうため、従業員持株会の活性化策を実施／特別奨励金(50,000円/人)の支給と奨励金率の向上(8.0%⇒10.0%)

2. 今後の取組み

○ ROE改善に向けた取組み

事業構造の転換により、さらに改善できる可能性

⇒ メーカー機能強化を進めることで、商社からメーカーへ企業構造改革を進める

中期経営計画「Next Stage 実行計画2023」(収益力改善に向けた施策)

■ 商社からメーカーへ、企業構造改革を進める = メーカー機能強化

■ 製品開発

- ・これまで営業活動で培ってきた情報や知識、知恵を製品という形にしていく
- ・産学連携、共同研究開発による成果を新製品開発に活用

■ 技術力

- ・アゼアスデザインセンター秋田を中核としてモノづくりの力を蓄積
- ・不織布加工技術により高機能防護服の生産プロジェクトが進行
- ・新たに布帛防護服生産ラインの新設も今後検討

■ 品質保証

- ・責任を持った製品づくり

⇒ 「アゼアス」ブランド確立、社会・市場から信頼されるブランドへ
(収益性の高い製品の販売比率を増加)

2. 今後の取組み

○ ROE改善に向けた取組み

売上高が伸び悩み、足元では感染症対策の需要の反動落ちで、減収
⇒ 売上拡大に重点を置いた施策の実行／売上拡大を通じて成長シナリオを示し(成長戦略)、総資産回転率を高めることでPBRの改善につなげる

中期経営計画「Next Stage 実行計画2023」(売上拡大に重点を置いた施策)

■ 「人と環境を守る」事業を強化し、安全な社会実現へ貢献する

- ・ 当社が優位性を発揮している化学防護服市場における専門的知見を他のカテゴリーの防護服市場にも活用
⇒ **防護服市場 8カテゴリーの開拓を進め、当社の事業領域を拡大**
- ・ アメニティ・テクノロジー(株)と提携して市場・顧客開拓を進める安全・環境設備分野は、個人用防護具と環境設備機器を組み合わせたソリューションビジネスを一層強化
⇒ **次の時代の中核事業の一つとなるビジネスモデルまで育成**
- ・ 防護服試験機能の集約と共同研究開発への注力
⇒ **信州大学繊維学部の知的資源を製品開発にフル活用**
- ・ 商号変更したアゼアス大連との連携強化
⇒ **強化を進める安全事業分野で、防護服、ヘルスケア等の生産と販売の機能両面において海外事業を強化**

2. 今後の取組み

○ ROE改善に向けた取組み

2025年4月期アップデート

■ 2026年4月期 年次経営計画

(利益率、増収による総資産回転率の改善に向けた具体的な施策)

<防護服・環境資機材事業>

1. 成長が見込まれる3つの市場開拓活動に集中

- ① 化学物質対策:「新たな化学物質規制」への対応として、「防護服の知恵.com」・「AZEARTH.net」の拡充により、化学工場等ユーザーへの情報提供強化
- ② 半導体等クリーン分野:国内への工場等設備投資が加速していることから、防護服とマスク等ヘルスケア製品両事業から、提案営業に注力。
- ③ 橋梁工事対策:インフラ老朽化による橋梁補修工事の需要増加を見込み、有害物質対策の個人用保護具の販売に注力

2. 新規防護服分野と、現場の環境改善分野の事業化を目指す

- ① 難燃防護服、耐アークフラッシュ防護服、高視認防護服:国内では企業や作業者のリスクの認識が薄く、普及が進んでいない分野であることから、製品バリエーションを強化し、安全性を訴求し市場創造を進行
- ② 安全環境設備分野:業務用空気清浄機の技術を用いて、アスベスト等有害粉じん対策、医療機関向け感染対策に加え、喫煙環境や臭い問題の改善等、幅広い環境改善製品を開発し、販路拡大

2. 今後の取組み

○ ROE改善に向けた取組み

2025年4月期アップデート

■ 2026年4月期 年次経営計画

(利益率、増収による総資産回転率の改善に向けた具体的な施策)

<ヘルスケア製品事業>

- ① 一般消費者向け不織布マスク: 日本製のJIS T9001規格適合品を中心に、安定的な受注拡大を実現
- ② 医療機関や、半導体、製薬等一般産業分野向け不織布マスク: 呼吸の快適性、消臭性能等の高機能製品と価格戦略両面で新規顧客を開拓
- ③ その他: 介護、高齢者施設のノロウィルス処理対策用に感染対策キットの提案を拡大

<ライフマテリアル事業>

- ① 連結子会社丸幸(株)を吸収合併(2025年5月1日付実施済み): アパレル資材事業において、グループの経営資源を有効活用し、組織運営を一体化することで、経営効率を向上
- ② ベトナムホーチミンに新会社設立(2025年9月予定): ベトナムへ製造拠点を移す企業の増加を受けて、サプライチェーンの多様化に取り組み、現地において日本品質のアパレル資材の調達、供給、開発に注力、将来的には、ベトナム国内での需要への対応や、東南アジアでのビジネス拡大を見据えて、現地法人を設立

2. 今後の取組み

○ PBR改善に向けた取組み

1株当たり純資産以上の株価上昇に追いつかない、防護服・環境資機材事業は環境や安全に係る問題の発生や関心の高まりが経営成績に影響を与え株価が変動する
⇒ 株価向上に向けた各種施策を実行するとともに、中期経営計画に示すとおり、事業環境に左右されず安定した利益を計上できる収益構造への転換を図る

中期経営計画「Next Stage 実行計画2023」(株価向上に向けた施策)

■ 中期経営計画の着実な実行による業績の向上

- ・ 収益力の強化／メーカー機能強化により一層の収益構造改革を推進
- ・ 売上拡大に重点を置いた施策の実行／**売上拡大を通じて成長シナリオを示す**

■ 説明会及びIR情報の充実

- ・ **成長シナリオを伝えるコミュニケーション**と広報活動に注力
- ・ 非財務情報も含めたIR情報の充実を推進

■ 配当額の引き上げ

- ・ 構造改革を通じて収益力強化を図るとともに、更なる企業価値向上につながる事業投資、人材投資にも経営資源を配分しながら、株主還元(配当金)の水準を決定
- ・ 継続的かつ安定的な配当を重視しつつも、長期的には徐々に配当金の増額を進める方針

■ 従業員持株会への特別奨励金付与・奨励金率引き上げ

2025年4月期実行済み

- ・ 従業員におけるモチベーションと経営参画意識の向上を図り、中長期的な株主価値を共有する

3. 目標とする経営指標

○ 中期経営目標指標

(単位:百万円)

2025年4月期アップデート

	2026年4月期 (2025年6月13日業績目標修正後)
売 上 高	8,445
経 常 利 益	300
ROA(連結)	3.4%
ROE(連結)	2.9%

- ・ 現時点の見通しを勘案し、これからの1年となる2026年4月期については業績目標数値を修正
- ・ 中期経営計画において掲げる経営方針、事業戦略に変更はなく、安全事業分野を強化し、引き続き計画に沿って着実に各種施策を実行